

活動目標2	共に助け合い、支え合う地域づくり	計画書	P54	～	P55
-------	------------------	-----	-----	---	-----

活動方針1 声かけあいさつ運動の推進

評価①			
市	事業・取組	声かけあいさつ運動の推進	青少年育成関係団体などの地域団体との連携を図り、登下校時における見守り活動やあいさつ運動を実施し、児童生徒の見守りを行う。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 令和5年で、学校教育課で取り組んでいた「スクールガードリーダー制度」の廃止に伴い、これまでのボランティアの方々は、生涯学習課の「とちぎ未来アシストネット事業」の学校支援ボランティアとして令和6年度も継続して、各学校の地域を中心に、登下校の安心・安全のために活動していただいた。見守りだけでなく、子どもたちに声かけやあいさつも継続して実施することができた。	
	課題	・見守りボランティアの高齢化や固定化 ・人員確保についての地域差	
	今後の取組方針	・今後も継続した取組ができるように人材の循環が図られる仕組みづくりが必要 ・保護者の見守りボランティアと協働し、今後も学校と地域が繋がって活動できるよう互いに連携が図れるよう支援していく。 ・タスキ・腕章・ベスト・帽子・横断幕といった備品は、学校を通して配付する。	
市	事業・取組	高齢者ふれあい相談員事業	高齢者ふれあい相談員が月に1回以上ご自宅を訪問し、安否の確認や相談に応じる。また、毎月ふれあい通信を配布する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 市内在住の70歳以上のひとり暮らし及び高齢者世帯に対し、定期的に訪問し、安否確認や相談・助言などを行った。また、市が毎月発行する「ふれあい通信」を届けた。	
	課題	ふれあい相談員の確保が難しくなっている。	
	今後の取組方針	支援の必要な高齢者が孤立することがないように、地域福祉の充実をコミュニケーションの一助となるよう、制度を継続するとともに更なる充実を図っていく	
市	事業・取組	地域支え合い活動	全世代型地域包括ケアシステムでの取組施策の一つとして自治会等による見守り活動などを行う「地域支え合い活動」の普及に取り組んでおり、①地域支え合い活動推進条例に基づく名簿の提供、②地域支え合い活動スタートアップ支援補助金の交付を行う。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地域の人々が、ひとり暮らしの高齢者や障がい者などを日頃から見守る「地域支え合い活動」を推進するため、地域支え合い活動対象者へ名簿登載調査を行い、名簿を作成・提供した。また、対象者抽出条件を整理するなど、名簿の作成方法について見直しを図った。	
	課題	地域支え合い活動に取り組む自治会の拡大に向けて、活動の普及啓発や、対象者名簿に係る周知が必要である。	
	今後の取組方針	より多くの自治会が地域支え合い活動に取り組めるよう、モデルとなる自治会の協力を得て作成したDVDの貸出や出前講座等を通してPRしていきたい。また、各地域の生活支援コーディネーターと協力し、何らかの見守り活動を実施している自治会を把握し、併せて地域支え合い活動について説明していきたい。	

社協	事業・取組	「声かけあいさつ運動」の推進	市社会福祉協議会広報誌への記事を定期的に掲載するとともに、市や関係機関・団体などと連携し、市全域の「声かけあいさつ運動」を推進する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 年6回発行の広報紙ふくぴーだよりにて、地域のつながり、気かけ合いが大切であること、地域のつながりなどの広報活動を実施した。	
	課題	地域内で日頃からのつながりを気かけ合い、声かけあいさつから始まる地域づくりを更に広める必要がある。	
	今後の取組方針	引き続き、広報紙ふくぴーだよりに掲載すると共に、日頃からの地域での気付き、つながりの声かけの重要性について地区懇談会等で啓発をしていく。	

評価②

数値目標		R02	R03	R04	R05	R06	自己評価	点数	評価基準	
市	スクールガード配置数 (人)	目標値	2,384	2,464	2,544	2,624	2,650		4	順調に進んでいる
		実績値	2,364	2,248	2,204				3	概ね順調だが不十分な点が少しある
社協	ふくぴーだより「声かけのスローガン」掲載回数(回)	目標値	5	6	6	6	6	4	2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
		実績値	6	6	6	6	6		1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	【取組における成果】 学校教育課で取り組んでいた「スクールガードリーダー制度」は令和5年度で廃止されたが、これまでのボランティアの方々は生涯学習課の「とちぎ未来アシストネット事業」の学校支援ボランティアとして、令和6年度も登下校の安心・安全のために活動していただいたことは成果として挙げられる。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 今後も継続した取組ができるように、保護者の見守りボランティアと協働し、今後も学校と地域が繋がって活動できるよう互いに連携が図れるよう支援していく。 ※評価②スクールガード配置数は、R5に名簿の見直しを行った際に個人情報の関係で活動はするものの名簿記載を拒んだ人がいるため、正確な数値を把握することができなくなったので評価対象外とする。
社協	【取組における成果】 地区懇談会や各種事業等で、つながりや気かけ合いの大切さを促すことができた。 また、岩舟地域協議体で行われている「あいさつ運動の強化」により、地域の見守り活動が継続できていることは成果として挙げられる。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 日頃からの地域の気付き、つながり、声かけあいさつの重要性について、各種研修会や集いの場等で説明し啓発を行っていく。

評価④

推進懇談会評価

- ・ふれあい相談員は毎年２割くらの方が変更されているので、任期を変更するのは難しいと思われる。
- ・自治会内での見守りについて、昨年孤独死が２件、一昨年は１件あった。孤独死された方は独居高齢者であったが、ふれあい相談員の見守り対象ではない年齢の方もおり、見守り活動は難しいと考える。

活動方針の実現に向けた現状の評価

4

・

3

・

2

・

1

活動目標2	共に助け合い、支え合う地域づくり	計画書	P56	～	P58
活動方針2	高齢者・障がい者等福祉サービスの充実				

評価①

市	事業・取組	福祉サービスの実施	子ども、障がい者、高齢者などの各分野の計画を全世代一体の考えに基づき定期的な見直しを行い、各種福祉サービスを実施する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 福祉分野の最上位計画である「地域福祉計画・地域福祉活動計画」および「栃木市再犯防止推進計画」の策定に取り組んだ。	
	課題	重層的支援体制整備事業を「地域福祉計画・地域福祉活動計画」に盛り込むことは出来たが、各福祉分野の部・課を超えた施策の連携体制を構築及び各課職員の理解の深化が図れていない部分もある。	
	今後の取組方針	こどもの分野も含めた福祉分野の各種計画との整合性を図りつつ、部・課を超えた施策の連携体制を構築する。	

市	事業・取組	職員の資質向上	福祉サービス事業者の指導監督等の事務を行う市職員の専門的知識の習得やスキルアップを図るため、研修を行う。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 福祉サービス事業者等への研修の実施や、市職員の専門的な知識習得のため、様々な分野の研修会等へ参加し職員の知識向上を図るとともに、福祉サービス事業者等と情報を共有し、サービス向上を図った。 また、全庁の職員を対象に認知症サポーター資質向上研修を実施し、更なる認知症への理解と接遇の向上を図った。	
	課題	専門的知識の習得に偏らず、幅広い分野の知識習得を図ることにより、指導監督の機能強化を図るとともに、複雑化・複合化した課題を抱えた市民への対応力の向上を図る必要がある。	
	今後の取組方針	様々な分野における知識習得やスキルアップのための研修会等を開催し、各分野での認識を共有する。	

市	事業・取組	関連協議会等との連携	あったかネット、特養養護連絡協議会、在宅介護サービス事業所連絡会、介護支援専門員連絡協議会との連携、下都賀郡市医師会、とちぎメディカルセンター等の医療関係者との連携をしていく。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる あったかネットと協力し、介護人材の確保を目的とした生活サポーター（あったかいご員）養成講座を開催したほか、医療・介護の関係者との連携のもと、在宅医療・介護連携推進事業により市民向け講演会や多職種研修会を開催し、市民への周知啓発や専門職の専門的知識の習得を図った。	
	課題	・複雑化・複合化した課題に対応するためには、関連協議会等との密接な意見交換や連携による事業の検討が必要である。 ・協議や事業実施にあたっては、コロナ禍以降定着しつつあるオンラインでの事業実施等も含め、より効果的な方法を検討していく必要がある。	
	今後の取組方針	・関連協議会等との連携を強化し、医療や介護分野における課題等について、共有を図り、在宅医療・在宅介護の充実と質の向上に努める。 ・オンラインも含めて協議や実施方法を工夫し、関連協議会等との密接な連携のもと、会議や事業を実施していく。	

社協	事業・取組	ふれあい在宅福祉サービスの実施	市民の助け合い精神を基礎とした会員制のサービス。協力会員としている市民が、掃除、洗濯、買物などのお手伝いをする住民参加型の在宅福祉サービス事業を実施する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 社会福祉協議会が窓口となって、地域にお住まいの方が地域で支援が必要な方に対して行う住民参加型のたすけあい活動で、主に、食事の準備や掃除・洗濯、買い物、外出の付き添いなどの家事支援を行った。 令和6年実績 協力会員47人 利用会員64人 派遣回数1,125回	
	課題	利用会員、協力会員ともに増加傾向にあるが、利用頻度が増加してきていることから、更に協力会員を増やす必要がある。また、地域によって事業の稼働率がバラバラである。 地域のつながり、地域での助け合いを切らないような支援を心掛ける必要がある。	
	今後の取組方針	広報紙ふくぴーだよりに継続的に特集を掲載、ホームページ、フェイスブックに周知をすることで、認知度の向上を図る。 ふれあい在宅福祉サービスのチラシを地域福祉サポーター養成講座や地区懇談会参加者に配布することで、事業を知ってもらい、協力会員として担い手を養成していく。	

社協	事業・取組	福祉機器等貸出事業の充実	車いす、車いす移送車の貸し出しなどを行う。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 車いす貸出・・・車いすを必要とする方の屋内外移動の負担軽減を図ること目的に車いすの貸し出しを行った。 車いす移送車貸出・・・車いすを利用する高齢者や身体障がい児者の外出（通院、外出等）の負担軽減を図ることを目的に車いすのまま乗車できる車両の貸し出しを行った。 令和6年度実績 車いすの貸出 312回 車いす移送車貸出 426回 本所、大平支所、藤岡支所、都賀支所で貸し出しを行っている。	
	課題	車いす移送車（貸出無料 ガソリン代のみ負担）を本所および大平・藤岡・都賀支所それぞれに整備しているが、認知度がまだまだ低い。	
	今後の取組方針	一度利用すると、リピートする利用者が多い。より一層、広報紙ふくぴーだよりに掲載することやチラシ等を活用しながら認知度の向上を図る。	

社協	事業・取組	事業所交流・学習会の開催	地域共生社会の実現に向けて、地域福祉を担う介護保険事業所並びに障がい福祉サービス等事業所が定期的に自由に集まれるサロンを開催する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地域共生社会の実現に向けて、地域福祉を担う介護保険事業所並びに障がい福祉サービス等事業所が定期的に自由に集まれるサロンを開催することで、事業所間の情報共有と相互理解による連携強化を図っている。令和6年度は全4回開催し73人の参加であった。	
	課題	地域共生社会の実現に向け、介護保険事業所並びに障がい福祉サービス事業所等が実施しなければいけない事業について情報共有出来る場が少ない。定期的に情報共有出来る場等を設ける必要がある。	
	今後の取組方針	継続して地域共生社会の実現に向けた、最新の情報共有の場を設けていく。	

評価②

数値目標			R02	R03	R04	R05	R06	自己評価
市	地域包括ケア推進 会議の開催(回)	目標値	2	3	3	3	3	1
		実績値	2	2	2	2	0	
	在宅医療・介護連携 推進会議の開催(回)	目標値	6	6	6	6	6	4
		実績値	5	6	6	6	6	
社協	ふれあい在宅福祉 サービス派遣回数 (回)	目標値	339	380	420	460	500	4
		実績値	648	1,190	1,431	1,176	1,125	
	車いす貸出回数(回)	目標値	291	295	300	300	300	4
		実績値	235	280	302	335	312	
	車いす移送車貸出回 数(回)	目標値	439	440	440	445	450	3
		実績値	402	451	406	351	426	
	事業所交流・学習会 の開催数(回)	目標値	6	6	6	6	6	3
		実績値	2	0	0	4	4	

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	【取組における成果】 あったかネットと協力し、介護人材の確保を目的とした生活サポーター（あったかいご員）養成講座を開催したほか、医療・介護の関係者との連携のもと、市民向け講演会や多職種研修会を開催し、市民への周知啓発や専門職の知識の習得を図ったことは成果として挙げられる。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 複雑化・複合化した課題に対応するためには、関連協議会等との密接な意見交換や連携を強化し、医療や介護分野における課題等について共有を図り、在宅医療・在宅介護の充実と質の向上に努める。
社協	【取組における成果】 インフォーマルサービスの一環として住民参加型の助け合い活動を実施しており、一定の効果が上がっている。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 協力者が住民参加型の助け合い活動事業への理解を深めるとともに積極的に活動への参加が出来るよう推進していく。

評価④

推進懇談会評価	
・地域包括支援センターが実施する地域包括ケア推進会議と社協が実施する地区懇談会の目的が少し違っているように感じられるため、方向性を明確にしていきたい。	
活動方針の実現に向けた現状の評価	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

活動目標2	共に助け合い、支え合う地域づくり	計画書	P59	～	P60
活動方針3	生活困窮者等への支援の充実				

評価①			
市	事業・取組	子どもの貧困対策推進計画に基づく事業の実施	すべての子どもが夢と希望をもって成長できる社会の実現を目指して、子どもの貧困対策を総合的に推進するため、各種事業を実施する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 関係機関と連携し、貧困リスクの高い方の早期発見、家事・子育ての支援、学習環境の整備・学びを支える体制づくり、就労相談や資格取得の支援、各種手当や助成制度等の活用促進、教育と福祉、保健医療が一体となった支援体制の整備を図った。	
	課題	各種事業について概ね目標どおりに実施できているが、子どもの貧困に関する課題が複雑化・複合化している中、関係機関や事業間の連携がますます求められる。	
	今後の取組方針	ヤングケアラーについて、こども家庭センターをはじめ関係機関と調整して、実態把握をする。	

社協	事業・取組	生活困窮者自立支援事業	生活困窮者が困窮状態から早期に脱却し、社会的・経済的に自立する事を目的に、支援対象者の個々の状態に応じた包括的な相談支援事業を実施する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 借金や家族問題など、さまざまな理由で経済的に困りの方の相談を受け、一緒に考え継続的にサポート、伴奏型の支援を行った。自立相談支援事業、学習支援事業、家計改善支援事業、就労準備支援事業を実施した。 令和6年度実績 ・自立相談支援事業 新規相談受付件数 315件 プラン作成件数49件 学習支援事業 毎週土曜日（計37日間） 登録者38人 延べ参加人数600人	
	課題	困窮に至るまでのプロセスが複雑であるため、対応に苦慮することが増加してきている。また、新型コロナウイルス特例貸付のフォローアップ事業に伴い対象世帯からの相談が増加している。	
	今後の取組方針	多機関及び社会福祉協議会内部の横断的な連携を図る。また、増加する見込みのある相談に対して支援体制の構築を図る。	

社協	事業・取組	緊急一時支援事業	生活困窮者等で一時的な困窮状態にある者に対して、生命の維持及び自立に向かうための必要な支援を行う。また、併せて、住民相互の支え合いを促進するため、寄付を募集し、給付事業等制度の拡充を図る。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 貸し付け相談等で一時的な困窮状態であり、生命の維持及び自立に向かうために食糧支援が必要な方に対し、米や缶詰等の食糧支援を行い、相談者との関係性を築き、相談支援を行った。 令和6年度実績 支援件数 623件 各家庭に眠っている食品276件、日用品等32件の寄付を受け、くらしサポート事業に活用した。	
	課題	支援者の増加や長期化により、安定的な食料の確保や保管場所の確保が課題である。	
	今後の取組方針	多機関と連携し、イベント等での食糧の寄付活動のPR活動を行い、本事業の趣旨を理解者を増やしながら継続的な食糧の確保を図る。 食べるものもないなどの相談者に対し、くらしサポート事業を活用し、関係性を築き、伴走型の相談支援を継続して行う。	

社協	事業・取組	各種資金の貸付・相談	生活福祉資金、社会福祉金庫(緊急的かつ一時的に生計の維持が困難になった世帯が対象)、高額療養費の貸付とその相談を行う。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうの方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる	
	課 題	生活福祉資金、社会福祉金庫(緊急的かつ一時的に生計の維持が困難になった世帯が対象)、高額療養費の貸付とその相談を行い、生活再建の一助を担った。 令和6年度 生活福祉資金貸付 2件 社会福祉金庫貸付 59件 高額療養費貸付 19件	
	今後の取組方針	コロナ特例貸付借受人に対するフォローアップ支援が開始したが、複雑な生活課題を抱えている対象者が多く、借受人の生活再建に向けた様々な支援が求められる。	

評価②

数値目標		R02	R03	R04	R05	R06	自己評価	点数	評価基準
市	高等学校等進学者数(人)	目標値	7	4	1	4	10	3	4 順調に進んでいる
		実績値	5	4	1	2	8		3 概ね順調だが不十分な点が少しある
社協	自立相談支援事業相談件数(件)	目標値	239	290	320	340	360	3	2 実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
		実績値	159	156	271	261	315		1 実施方法も含め改善が必要である
	自立相談支援・家計プラン作成件数(件)	目標値	28	33	35	38	42	4	
		実績値	12	13	25	13	49		
	緊急一時支援事業支援回数(回)	目標値	309	360	400	430	460	4	
		実績値	336	499	598	601	623		

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	【取組における成果】 関係機関と連携し、貧困リスクの高い方の早期発見、家事・子育ての支援、学習環境の整備・学びを支える体制づくり、就労相談や資格取得の支援、各種手当や助成制度等の活用促進、教育と福祉、保健医療が一体となった支援体制の整備を図れたことは成果として挙げられる。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 ヤングケアラーについて、こども家庭センターをはじめ関係機関と調整して、実態把握をする。
社協	【取組における成果】 生活困窮者自立支援事業は、経済的な理由で生活に困っている方の、世代や属性に関係なく、伴走型支援を行っており、包括的支援体制構築と地域のセーフティーネットの一翼を担っている。 また、学習支援事業は貧困の連鎖を断ち切るため、学習や進路相談を実施し、本人の希望する進路実現に貢献している。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 貧困の連鎖防止のため、生活困窮世帯に学びの場を提供するとともに、単に学習をサポートするだけでなく、生活相談も含め、講師及び職員がサポートしていく。 また、生活困窮世帯に対し、食料支援なども継続して実施する。

評価④

推進懇談会評価

- ・子ども食堂について、こども家庭センターと生活保護担当者と連携を図られているようだが、生活保護担当者と子ども食堂の運営者との連携も図られるようにしていただきたい。

活動方針の実現に向けた現状の評価

4

・

3

・

2

・

1

活動目標2	共に助け合い、支え合う地域づくり	計画書	P61	～	P63
活動方針4	活動拠点、交流拠点の充実				

評価①			
市	事業・取組	交流拠点の充実	誰もが身近な地域で気軽に交流活動ができるよう、既存施設等において、各種講座や学級を実施する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地元の高齢者・女性・子ども等を対象にした各種学級講座や、栃木市内全体を対象とした栃木市公民館教養講座を開催し、参加者同士の交流や仲間づくりを行った。	
	課題	参加者が固定化される傾向にある。	
	今後の取組方針	より多くの方に興味を持って参加してもらえよう、魅力ある学習プログラムの企画を行う（地域政策課）	
市	事業・取組	市社会福祉協議会との連携強化	社協への職員の出向や、障がい児者相談支援センター業務の一部などを市が社協へ委託するなど、社協との連携を強化する。また、広報とちぎに社協が開催する事業の記事を掲載するなど、周知に協力する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 社会福祉協議会へは生活困窮者自立支援事業への職員出向。成年後見センター運営委託を行った。市へは地域包括支援センター・障がい児者相談支援センターに派遣職員を受け入れた。また、第3期計画の策定に伴い、基本理念の設定や重点事業の選定などを協働して行った。	
	課題	岩舟地域の協議体を参考に地域力強化を進めることが課題である。	
	今後の取組方針	地域社会の拠点である地区社協と包括支援センターの連携を強化させることで、地域力強化を進める。	

社協	事業・取組	身近でできるサロン事業の体制づくり・支援	高齢者等の閉じこもり防止や子育て家庭の親子の交流、障がい児を持つ家庭の相談や仲間づくり等を目的に各種サロンを実施する。また、地区社会福祉協議会が高齢者や子育て親子を対象として開催するサロンへの補助を行う。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる いきがいサロン・・・一人暮らし高齢者等のいきがいづくりを目的に地区社会福祉協議会等の団体に補助を行った(6団体) 子育てサロン・・・子育て家庭の親子の交流や育児に関する情報交換等を目的に地区社会福祉協議会に補助を行った(1団体) 障がい児サロン・・・障がい児を持つ家庭が抱える子育ての相談や指導を行うとともに保護者同士の情報交換・親子の仲間づくりを目的に開催した。(6回 133人)	
	課題	核家族化及び地域コミュニティが希薄化してきている中、地域の中で気の合う仲間などの集まれる場所が更に必要とされている。	
	今後の取組方針	地域の中で気軽に集まれることのできるサロン等を今後も継続して運営できるよう支援していく。新規で立ち上げたい地域があれば社会資源等情報提供し、円滑に立ち上げられるよう後方支援をしていく。	

社協	事業・取組	コミュニティカフェの実施	年齢や障がい等の有無に関わらず、地域のあらゆる住民が自分らしく、それぞれに役割を持ちながら参加できる、地域住民の交流の場や相談の場としてコミュニティカフェ「オレンジカフェ」を開催する。
	前年度事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 年齢や障がい等の有無に関わらず、地域のあらゆる住民が自分らしく、それぞれに役割を持ちながら参加できる、「地域共生社会」を目指し、地域住民の交流の場や相談の場としてコミュニティカフェを開催した。 商業施設のフリースペースを活用し毎月開催する他、公民館等活用した出張版のコミュニティカフェも実施した。また、認知症カフェへの支援を実施した。 令和6年度実績 コミュニティカフェ48回 1,810人	
	課題	コミュニティカフェが参加するだけでなく「社会参加の場」「人とつながる場」としていく必要がある。	
	今後の取組方針	地域の中で誰もが参加できるコミュニティカフェを開催することで、支えあいやつながりが小さい単位でできることにより、細かい網目のセーフティネットを構築できるので継続して推進する。 また、コミュニティカフェが地域のあらゆる人の「参加の場」「交流の場」になるよう支援していく。	

評価②

数値目標			R02	R03	R04	R05	R06	自己評価
市	市民向け講座の数(講座)	目標値	1,745	1,758	1,772	1,786	1,800	2
		実績値	1,089	957	319	1,566	1,548	
社協	まなごサロン参加人数(人)	目標値	90	100	110	120	135	
		実績値	99	96	87	廃止		
	親子ふれあいサロン参加人数(人)	目標値	1,257	1,300	1,300	1,300	1,300	2
		実績値	237	223	483	565	398	
	障がい児子育てサロン参加人数(人)	目標値	447	450	450	450	450	2
		実績値	0	52	185	204	133	
	コミュニティカフェ参加人数(人)	目標値	1,432	1,500	1,500	1,500	1,500	4
		実績値	964	1,022	2,523	3,563	1,810	

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】

市	【取組における成果】 市社会福祉協議会との連携については、第3期計画の策定に伴い、基本理念の設定や重点事業の選定などを協働して行った。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 今年度から3期計画が始まるため、社協と連携しながら新しい評価シートの作成に取り掛かる。また、岩舟地域の協議体を参考に、地域社会の拠点である地区社協と包括支援センターの連携を強化させることで、地域力強化を進める。
社協	【取組における成果】 本会では、民間業者との連携・協力を得て、スーパーのフリースペースや地域ボランティア等の社会資源を活かしながら、サロンやコミュニティカフェを実施している。 また、包括支援センターと共に認知症カフェを支援することで、参加者等の日常的な困りごとなどに対する相談支援を行っている。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 今後も地域の社会資源を活用し、社会参加のきっかけの場となるようコミュニティカフェ等を実施する。 また、コミュニティカフェを相談の場とし、行政・社会福祉協議会が一体となって活動の支援を行っている。

評価④

推進懇談会評価

・社協が実施している「いきがいサロン補助事業」について要件が年2回以上の開催となっており、年1回の開催では補助金の申請が出来ないので、要件を緩和して欲しいとの意見が出ているが、限られた財源で実施していることも考慮し、市が実施している「はつらつセンター」や「いきいきサロン」などの活用を促し、地域の集いの場を確保できるようにして欲しい。

活動方針の実現に向けた現状の評価

4

・

3

・

2

・

1